

生物多様性

とかち鹿追ジオパークの多様な地形は、さまざまな棲息地や種を支えています。耕作可能で、土壌に灰分が豊富に含まれている十勝平野では、昔から農業が栄えていました。鹿追北部に位置する然別山地には、豊かな生態系とマイクロ生態系があり、多様なコケ類や地衣類に加え、独自の進化を遂げた依存種の動物が存在しています。

氷河期の遺物

然別湖周辺の風穴が点在する山々の斜面は、通常はユーラシア大陸北部にしかみられない、寒冷地に生息するキタナキウサギの亜種の生息地です。ナキウサギは、ウサギや野ウサギの仲間です。エゾナキウサギは北海道固有の亜種で、人のこぶしくらいの大きさで、体重はおよそ 120 グラムです。エゾナキウサギはナキウサギから進化した氷河期の生き残りで、北海道とサハリンを大陸へとつないでいたランドブリッジ（陸橋）を渡ってきたものと考えられています。然別の山々にある風穴は、寒さが十分に保たれた環境を作り出し、エゾナキウサギにとって重要な食物源であるラブラドルチャなどの高山植物の成長を支えています。

適応するために進化

然別湖のミヤベイワナは、ここ以外では世界のどこでも見られない魚です。このオシロコマの亜種は、火山活動による環境変化に対応して進化しました。何万年も前の然別溶岩ドームの形成により、こ

の辺りの河川はせき止められ、それにより然別湖ができ、オショロコマはそこへ隔離されたのです。この魚は、標高が高く、食物源が非常に限られているという、過酷な新しい環境に順応する必要がありました。やがてプランクトンがこの魚の主な栄養源となり、これを効果的に処理するために、追加の鰓耙が発達しました。オショロコマにはこれが 21 または 22 個あるのに対し、ミヤベイワナには 26 個付いています。

多様なコケ類

然別湖周辺の森はコケで覆われており、風穴が点在するゴツゴツした斜面にもコケが生えています。コケがあることで、雨が吸収され、土に水分が保持され、周囲環境の湿気が保たれるため、他の植物もよく育ちます。また、風穴が覆われることで、春・夏の氷の融解プロセスが緩慢になります。世界に 1 万種以上存在するコケ類のうち 1,600 種が日本で見つかっており、その多くがとがち鹿追ジオパークに生えています。ジオパークに生えている固有種には、アップルモス、ダチョウゴケ、ヒカリゴケに加え、ミスゴケも数種含まれます。然別湖エリアは、日本蘚苔類学会により貴重なコケの森に指定されています。